

■学校経営のポイント

いじめの点検と具体的な指導

小島 宏

新型コロナに関わるいじめや誹謗中傷が、各地で問題になっている。このことを踏まえて、いじめの点検と具体的な指導・対応を見直したい。

新型コロナに関わるいじめの傾向

新型コロナに関しては、医療従事者や社会活動を支えている人々とその家族、海外から帰国した児童生徒や外国人児童生徒、感染者や濃厚接触者とその家族等に対する差別や偏見・誹謗中傷、いじめなどが考えられる。また、発熱したり咳をしたりしている子どもに対する誤解からいじめが起きることもある。

具体的には、冷やかしの悪口・暴言、仲間外れ・嫌がらせ、物隠し、持ち物の破壊や落書き、LINEやSNS上での誹謗中傷など、精神的・身体的に苦しめるもので、これまで以上に細やかな配慮が大切である。

新型コロナに関する視点からの指導

学級活動や道徳科などにおいて、子どもの発達段階に応じて、次のことを具体例を示しながら丁寧に指導する。

【医療従事者やその家族等への偏見・差別の防止】

- 医療従事者や社会活動を支えている人々が、患者の治療や感染の拡大防止のために頑張っていることを具体的に理解させる。
- 差別や誹謗中傷ではなく、むしろ感謝する、ねぎらう、励ます、応援する気持ちを大切にすること。
- また、その子どもなど家族を差別したり、いじめたりしないようにする。

【感染者やその家族等への偏見・差別の防止】

- 誰もが感染する可能性があり、感染した人をいじめたり、責めたりしないようにする。
- そして、思いやりの気持ちで、早く治るように励ましてあげる。
- 治って戻ってきたら温かく迎え、今までのように仲良く過ごすようにする。

居場所のある学級づくり

子どもにとって安心・安全・安定した生活のためには、好ましい人間関係の構築が重要で、全ての子どもに、明るく伸び伸びと過ごせる「居場所のある」学級づくりが不可欠である。

そのために、助け合いや思いやり、好ましい人間関係などについて、休憩時間、学級活動(係や当番、給食や清掃など)、クラブ活動や部活動をはじめ各教科や道徳科において丁寧に指導したい。

いじめの指導と対応の充実

いじめをしないよう指導するとともに、悩みを相談しやすい体制を整え、早期にその兆しを見つけ、即指導する必要がある。また、いじめが起きた場合は、被害者を守ることを第一に、迅速かつ具体的な指導・対応を徹底することが重要である。

保護者の理解と協力

いじめをはじめとして、学校における子どもたちの状況(良い面・頑張っていること、課題と学校の取組)を、学校だよりやホームページ、保護者会などを通して、こまめに知らせる。相談や疑問、提案には丁寧に対応するように努め、パートナーとしての保護者の理解と協力が得られるようにする。

管理職のリーダーシップ

教員は何かと忙しく、いじめの指導と対応は大切だと思いつつ、つい先送りにしがちである。

そこで、管理職は機会を捉え、子どもたちの学校生活の様子を観察して、教員の取組状況を随時評価する。そして、良い点や改善されたことなどを認め褒めるとともに、必要な指導・助言・支援を行うことが肝要である。

(こじま・ひろし=元東京都立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●安全・安心と学びの保障のために今できること 《好評発売中!》
ポスト・コロナの新しい学校づくり A4・1枚実例シート65

【編集】渡辺秀貴(創価大学准教授) B5判/定価(本体 2,000円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

